

2022 年度 JIA 東北支部運営・活動方針

公益社団法人 日本建築家協会 東北支部長 進藤勝人

会員の皆様に於かれましては、日頃より JIA の会員として建築家として、支部活動、復興支援・まちづくり支援、さらには業務を通しての社会貢献に対し敬意と感謝を申し上げます。

新型コロナウイルスの感染拡大により、人々の生活様式や経済活動に影響を及ぼしています。

我々設計業界も、その影響を受けています。

行動制限による、施主や工事現場とのリモート会議やテレワーク、プロジェクトの延期や中止、海外商品入手困難による現場の遅れ、など昨年は様々な影響を受けた一年となりました。

又、人材育成という面でも、建物視察の激減やテレワークにより若い設計者の育成が困難な状況になりました。

新型コロナウイルスの感染拡大がおさまらない中、コロナ禍の設計事務所の在り方や建築の在り方について話し合っに行かなければならないと思っています。

昨年の東北支部での活動は、新型コロナウイルスの影響を受け、第 25 回東北学生賞と第 14 回東北住宅大賞一次審査のみとなりました。何れも感染症対策を駆使した、無観客やリモートを利用した、大会となりました。

今年の JIA 活動ですが、メインのイベントとしては、新型コロナウイルスの影響で延期となった、東日本大震災 10 年目の企画を行う予定です。プロローグイベント、メインのイベント、エピローグイベントの 3 回に渡り開催する予定です。

「繋ぐ」をテーマに、10 年に渡る活動報告や、設計に携わる物として、何が出来て、何が出来なかったのか、などを話し合いこれから予想される大災害を見据え、伝え継ぐ活動をしていきたいと思います。

又今年は JIA 東北建築家大会 2022 を山形で開催する予定です。山形の歴史や文化、まちづくりを紹介出来る企画としたいと思っています。

その他、建築家・設計事務所の「業務改善・設計者選定（コンペ・プロポ、入札・最低制限価格、多様な発注方式、発注者責任）・設計報酬」への取り組み、「魅力ある職場、働き方改革」への取り組み、「AI・BIM・IoT」などの技術革新への取り組み、会員の減少、高齢化などの問題を抱える「JIA の組織」の在り方などの課題への取り組みを引き続き進めていきたいと考えます。

今年の活動のテーマは、3 つあげたいと思えます。昨年に引き続き「縮小する社会の中での建築の在り方について考える」「コロナ禍の建築の在り方について考える」「2050 カーボンニュートラルについて考える」今避けてとれない課題について話し合っに行きたいと思えます。

2022 年度 主な骨子 「縮小する社会の中での建築の在り方について考える」

「コロナ禍の建築の在り方について考える」

「2050 カーボンニュートラルについて考える」

1. 「建築の在り方」 今年の 3 つのテーマについて講習会や話し合いを行う。
2. 「復興」 震災から、10 年目の発信に向けてこれまでの復興支援活動や復興建築の取り組みと、今後の課題等をまとめ、トークイベントを行う。
3. 「地域会」 各地域で行われる公益的地域会活動が支部活動の主体であることを引き続き、定着させ、その活動が円滑に進められるよう支援します。
4. 「会員」 「正会員・準会員（専門会員・シニア会員・ジュニア会員・学生会員）・協力会員」の入会促進と「登録建築家」への登録促進。
5. 「事業」 第 2 回東北建築大賞 2022 の開催、第 26 回東北建築学生賞とセミナーの開催。東北建築家大会 2022 山形の開催。歴史的建造物・遺構の保存
6. 「会員交流」 「JIA 建築家大会」を通して全国の会員、海外の建築家協会との交流促進。
7. 「行政他団体」 東北公共建築設計懇談会・建築設計関連団体サミットや他の会議体を通して、行政・事務所協会・士会・学会・建設業協会等との協力・連携を強化し、行政への業務改善やまちづくりに対しての要望などを展開する。